

学力調査等の状況	
<p>令和3年度全国学力・学習状況調査における平均正答率との差異を観点別に見てみると、国語は都平均に対し-9%であり、算数は都平均に対し-9%となっている。また、評価の観点別にみると、知識・技能面が都平均に対し-10.4%、思考・判断・表現が都平均に対し-7.3%となっており、国語、算数共に知識・技術面に課題がみられる結果となった。学習内容別に見ると、国語の書く力は、-2.9%と都平均に近い理解力を示している。</p>	

見えてきた課題	
<p>知識、技能に大きな課題がある。具体的には、関係に着目して全体を見たり、見通しを立てたりする力が課題である。また、技能面で意味理解が伴っていない傾向が見られ、意味理解の伴わないやり方のみの暗記にたよった学習が見られたり、文章等の表面部にだけ着目して問題把握ができていなかったりすることがある。その結果が、思考力や判断力、表現力にも影響を及ぼしていると考えられる。また、多様な見方や考え方が不十分で、工夫することやよさにも気付きづらくなっている。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・G suiteを活用し、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを知ったりする学習活動を取り入れる。また、集めた情報をまとめたり、プレゼンテーション資料の作成をしたりする学習活動を行う。 ・理科実験や観察などにおける動画の活用、社会科資料などの情報収集、算数での表やグラフ作成などICTによる学習支援を積極的に行う。
認め合う・学び合う集団の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」を取り入れた、楽しく「分かる・できる授業」、習得目的を明確にした授業を意識する。 ・問題解決的、課題解決的な学習の展開を通して、発表される児童の考えの共通点や相違点から学習のまとめを行う集団検討を重視し、児童相互に学び合う授業展開を行う。
構造的な板書とノート指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業の流れが分かるような板書を行う。授業の問題、ねらい、児童の考え、まとめが分かりやすいようにカード活用を通して明示しながら書いていく。また、児童の疑問点やつぶやき等を随時黒板に反映させるなど、児童の思考が見える板書を行う。 ・黒板とリンクしたノートの書き方を指導し、黒板を写すだけでなく、自ら考えたことや気づいたことを書き込めるノート指導を行う。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<p>語彙を増やすために国語辞典を活用し、漢字や文法等苦手なところろに気を付けながら、練習問題などで繰り返し練習したり、「おすすめ本」を紹介して読書の幅を広げたりする。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。</p>	<p>文字指導では、読み方、書き順、写し書きなどの一貫した手順を、繰り返し行い定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む能力を高めるために、正確に読むことを基本として行えるように教師の範読や一文読みなどの音読を取り入れる。 ・読書の時間を定期的に確保し、学校図書室の利用や読み聞かせの機会を充実させて、読書に親しめるようにする。 	<p>漢字の読み書きについては、小テスト等反復練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解の学習では、国語辞典を活用し、語句の意味調べを行う。段落分けなど、文章の構成を意識しながら学習をすすめるようにする。 ・作文指導では、始め・中・終わりを意識して文章を書かせるようにする。 ・PCなどで、ローマ字に親しませる。幅広く読書ができるように図書室利用の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味調べや部首調べ等、国語辞典を使って語句に親しむ。 ・段落の関係を整理したり、書き手の主張をとらえたりしながら、的確に文章の内容を理解できる学習を取り入れる。 ・結論や理由をはっきりさせて意見を述べたり、相手の意見を聞くなどの話し合い活動を取り入れる。 ・本の紹介などを通して、すすんで読書をする。
社会科	<p>単元毎に中心概念、社会的対象、用語・語句を明確にして社会的な思考力を伸ばし知識の定着を図る。また、対話的な学びを取り入れて、児童が主体的に学習意欲を継続する学習スタイルを定着させていく。基礎的な知識だけでなく、学習事項から互いの考えをつないでまとめるなど、自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。</p>	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「簡単な絵地図に親しむ。」「探検遊びをして、場所の特徴を説明したり、まとめたりする。」などの活動を通して、社会事象と自分の生活を結びつける経験をさせる。 ・気付いたことを言葉や絵など多様な方法で表現できるようにさせる。 ・探検遊びを通して、身近な施設や人々が自分の生活を支えていることに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方位、グラフをはじめとした地図や資料を読み取る場面を増やす。また、必要な情報を選び、活用できるような場面を設定する。 ・見学の際には、質問事項を準備しておくなど、目的意識を高めておく。 ・学習を自分の生活に結びつけられるような、まとめ方を指導し、まとめる経験を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取った情報を根拠として課題についてまとめるような問題解決型の学習を展開する。 ・重要な語句については目立つように記入させたり、反復させたりする。 ・グラフや地図、図など必要な情報を生かしたり、様々なまとめ方(ノート、発表、新聞等)を経験させたりする。
算数科	<p>問題解決学習の推進により、問題をきちんと把握し、見通しをもって論理的に、自立的、協働的に解決していく力をつける授業スタイルをとる。また、計算方法だけでなく、仕組み理解とのスパイラルな学習を行い、柔軟に発展的に対応できる計算力をつけていく。東京ベーシックドリルの実施結果や学力調査の結果を分析し、学年別に重点指導内容を意識した指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・百マス計算を定期的に行い、基礎的な計算力をつける。 ・数の合成分解が自在にでき、数の多様な見方ができる素地作りを行う。 ・簡単な図や絵を活用して問題を把握したり、自らの考えを表したりする習慣づけを行う。 ・問題の解答について、集団で比較、検討を行い、計算等の仕組みについて理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・百マス計算を定期的に行い、基礎的な計算力をつける。 ・navimaを活用し、前の学年の内容についても苦手な領域に取り組んでいる。 ・既習事項を確認する時間を適宜確保し、学習の積み重ねができるようにする。 ・一人一人の学力を伸ばすため、コースに応じた課題や教材を準備し、児童が意欲的に学習できるようにさせ、確実に知識・技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により、それぞれの児童の実態に即した授業展開を工夫する。 ・既習事項を確認する時間を適宜確保したり、navimaを活用したりして、学習の積み重ねができるようにする。 ・友達の考えを聞き、自分の考えと比較することで、よりよい考えや自分に合った解法などを見つけたり選択したりできるようにする。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

理科	<p>考えたことを自分なりに整理して、言葉で説明したり、文章や図、絵などで表現する活動を増やしていく。また、探究する活動の各場面において言語活動を充実させることで、科学的な思考力、表現力を高めていき、問題を科学的に解決しようとする学習の充実を図る。</p>	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ・「自然を観察する。」「植物を育てる。」「身近な自然を利用して物を作る。」などの活動を通して、自然事象に対する気付きをもてるように指導する。 ・自然事象に対する気付きを言葉や絵など多様な方法で表現できるようにする。</p>	<p>・思考力を高めるために、自ら問題を見出したり、生活等の実体験から根拠のある予想や仮説をもつことができるように指導する。 ・観察や実験などの活動を通して、言語活動の充実を図り、言葉や絵などを使い、共通点や差異点について表現したり、説明したりできるように指導する。</p>	<p>・各内容の性質について、予想や仮説から、解決方法を思考したり、妥当な考えを導き出す活動を通して、思考力を高めていく。 ・問題を解決する学習に取り組み、事象を多面的に調べ、言葉や絵などで表現する力を育てる。 ・予想を確かめるための実験方法の工夫や実験の結果から考察をする活動を通して科学的思考力を高めていく。</p>
-----------	--	--	--	--

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<p>校外での活動を積極的に取り入れ、調べたことや体験したことを下級生に伝える場を設け、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図る。</p>	<p>・植物や生き物を育てる活動を通して、成長の様子や世話の仕方に気づき、植物や生き物への親しみをもてるようにする。 ・地域と関わる活動を通して、地域やそこで働いている人々について考えたり、公共施設などの働きをとらえたりすることで、自分たちの生活がさまざまな場所や人と関わっていることを感じられるようにする。</p>	/	/
音楽科	<p>各学年の発達段階に応じて、基礎的な技能の習得を行い、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。</p>	<p>新型のコロナ感染防止対策の必要性からできなかった歌唱指導がどこまでできるようになるかで変わってくるが、歌うときの基本的な気を付けることと周りの友達の様子も意識して、声をかけ合ったり、友達に注意するなどの態度を育てていく。器楽に関しては、一人ひとりが気をつけることと互いに認め合ったり、注意したりなどの場を設定する。</p>	<p>歌唱に関しては、普通に声が出せる環境になることが望まれる。CDの範囲やリズムを聴き、課題に応じた聴き方を育てていく。楽譜の読み取りや楽典の学習では、皆で共通の画面を見て、資料のいろいろな部分をしっかりと読み取ることによって、学習の課題をしっかりと把握し、内容の理解に結びつけていく。器楽のリコーダーでは、普通にできる環境になるまでは、指で押さえるだけでなく、同時に階名唱なども行い、次に繋がる指導をする。</p>	<p>歌唱指導がどの程度、どこまでできるかが大きな課題と言える。昨年度実施できなかったという2部合唱の指導は、範囲を何度も聴いたり各パートの取り出し練習等によって意識を高め、内容を理解し、実際の歌唱に結びつけていく。器楽は児童の興味関心から出発し、現状に合った教材選択をしつつも、学年の課題は達成できるように、工夫をして授業を進めていく。</p>
図工科	<p>道具や材料のよさを生かし、自分の表したいことを表現したり、形や色のもつイメージを感じながら、表現活動と鑑賞活動を行ったりして、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。</p>	<p>・ペットボトルや新聞紙等の身近な材料を用いることで、自分の見方や考え方を広げる活動を行う。 ・洗濯のりや液体粘土などの素材を取り入れ、手や体全体の感覚を働かせる活動を通して、様々な方法や展開を考え、創造的に作ったり表すことの楽しさを感じられるようにする。 ・物語を読んだり、日常の体験の中から感じたりしたこと、想像したことから、表したいことを見つけたら、思いついたりすることができるようになる。</p>	<p>・シーサーを初めとした陶芸作品、身近な絵画作品等の鑑賞を行い、自分の見方や考え方を広げる。 ・水彩絵の具やクレパス、コンテパステルなどを使った造形遊びの活動を通して、用具を自分の表現したいものに合わせて選択し、工夫して表すことができるようになる。 ・電動糸のこぎりや金づち、水彩絵の具等の用具の扱い方に慣れ、適切に扱うことができるようになる。</p>	<p>・墨などの伝統的な画材の使用や手やランドセルを初めとした物の観察を通して、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの特徴を自分の感覚を通して捉え、自分のイメージをもつことができるようになる。 ・日本や外国の作品、自分たちの作品の鑑賞を通して、自分たちの見方や感じ方を広げる。 ・日常生活で使っていた焼く物を作る活動を通して、今までの活動で経験したことを活かし、どのように主題を表すかについて考える。</p>
家庭科	<p>体験的な活動(実習)の充実や授業開始前の注意事項板書、作業手順を絵や図に表して主体的活動、視覚的な理解を促す。生活の営みを想起させながら、生活体験等と関連付けてより深く理解させていくとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考えさせていく。</p>	/	/	<p>・単元計画の見直しを行い、授業を実施した。家庭科室で活動する場合、フェイスシールドを着用させ、感染予防に努めた。 ・調理実習ができないので、夏休みの宿題とし、2学期に振り返りを行った。 ・クリーン大作戦、ミシンでソーイングを行い、生活体験の中から日常生活での問題を想起させる授業を行えた。</p>
体育科	<p>3観点をバランスよく育むために、運動の特性を意識した単元の指導計画を立て実践する。児童の実態を見取り、具体的支援を行う。また、知識・技能の基盤作するために、領域や学級の実態に応じた、チーム編成や場の設定を意図的・計画的に行う。さらに思考力・判断力・表現力を養っていくために、1単位時間のめあてをもたせ、振り返りを毎時間行う。</p>	<p>・児童間の距離をとり、感染症予防に努める。また、WBGTの値にも注意をはらい、適度な休憩・水分補給を怠らず、安心で安全な体育の授業を目指す。 ・あいさつや素早い整列など体育の授業の決まりを提示し、安全に体育の授業が行えるように規範意識を養わせる。 ・コロナ禍でも児童との関わりを大切にし、密を避け、小集団での活動を増やしていく。</p>	<p>・児童間の距離をとり、感染症予防に努める。また、WBGTの値にも注意をはらい、適度な休憩・水分補給を怠らず、安心で安全な体育の授業を目指す。 ・学習の場を設定したり、児童が準備や片付けを行ったりする際には、安全指導を十分に行う。新型コロナウイルス感染症の対策を行った上で、児童が関わり合うことができる活動を増やす。</p>	<p>・児童間の距離をとり、感染症予防に努める。また、WBGTの値にも注意をはらい、適度な休憩・水分補給を怠らず、安心で安全な体育の授業を目指す。 ・様々な学習の場を設定し、学習カードやICT機器を活用して、支援の手立てを充実させ、3観点バランスよく育つよう学習計画を立てる。小集団の関わりを大切に、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を両立させ指導する。</p>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

外国語科	外国語科としての指導内容を理解し、年間カリキュラムの作成を行う。「読むこと」「書くこと」指導の充実を図る。外国語やその背景にある文化などの見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの基礎的な力を身につけさせる。			<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、決まった流れで授業を進めることで、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。 ・単語や文を何度も声に出すことで、英語に親しみ、また、中学校での学習につなげられるようにする。 ・質問とその答えなど、ペアで会話をしている時間を取り、コミュニケーションの力を身に付けられるようにする。
------	--	--	--	---

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○地域教材・人材の更なる掘り起しを計画的に行い、体験学習を中心とした学習を展開する。 ○地域の施設の利用方法(忠生公園・ただONなど)を知ることを通して、地域の理解を深められるようにしていく。 ○調べたことや体験したことを下級生に伝える場を設ける。下級生に分かりやすく伝えられるように発表の仕方を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した体験的学習を取り入れ、学習計画を立てている。 ・障害理解およびパラリンピック学習を通して、人権意識を高める。 ・学習課題に問題設定し、調べたことや体験したことを取捨選択し、発表方法を検討して分かりやすく工夫した発表を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した体験的学習を取り入れ、学習計画を立てている。 ・たてわり班活動や職業調べの活動を通して、キャリア教育の充実を図る。 ・学習課題に問題設定し、調べたことや体験したことを取捨選択し、発表方法を検討して分かりやすく工夫した発表を行えるようにする。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が多面的・多角的に考えられるような発問を構成しながら、道徳的価値の理解が深められるようにしていく。また、道徳的理解を自分との関わりで考え、自己の生き方についての考えを深められるような授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習のねらいに迫ることができるように教材分析を行い発問の精選を行う。 ・登場人物の気持ちをより深く想起させるために毎時間必ず場面絵の提示をする。 ・ワークシートには、中心発問の考えを書かせるだけでなく、教材を通してどのようなことを学んだか、自分を振り返り、気付いたことも書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習のねらいに迫ることができるように教材分析を行い発問の精選をして授業展開をしている。 ・児童が安心して発言できるように、ワークシートに書く活動を毎時間取り入れた。 ・自分の考えだけでなく、友達の考えを聞いたり、書いたりすることで、人間理解、価値理解を深めるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習のねらいに迫ることができるように教材分析を行い発問の精選をして授業展開をしている。 ・児童の考えが明らかになるよう、ワークシートに書く活動を毎時間取り入れ、発言の深まりをねらう。 ・自分の考えだけでなく、友達の考えを聞いたり、書いたりすることで、人間理解、価値理解を深めるように工夫している。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○たてわり班活動をより充実させ、6年生のリーダーとしての資質を育てるとともに、異学年交流を深める。 ○児童の役割を分担して学級会を開き、有効な活動に必要な力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動を通し異学年との交流の中で、よりよい人間関係を築けるよう。 ・簡単な係活動を分担し、自主的な活動の素地を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動を通し異学年との交流の中で、よりよい人間関係を築けるようにする。 ・日々の係活動を通して、自主的な活動の素地を育てる。 ・児童の役割を分担して学級会を開き、自立的な活動の素地を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動を通し異学年との交流の中で、よりよい人間関係を築けるようにする。また、高学年として下級生をまとめる力を育てる。 ・日々の係活動を通して、自主的な活動を進める。 ・児童の役割を分担して学級会を開き、自立的な活動を進める。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動としての指導内容を理解し、年間カリキュラムの作成を行う。「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」指導の充実を図る。 ○正しいアルファベットをもとにして、馴染みのある単語を聞いたり、話したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での挨拶を知って、やり取りする。 ・身の回りの身近な言葉を英語で聞いたり、言ったりして、英語での表現に親しむ。 ・英語の歌を聞いたり、歌ったりして、楽しみながら英語表現に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での挨拶を毎時間行い、習慣化する。 ・英語の歌を聞いたり、歌ったりして、楽しみながら英語表現に親しむ。 ・コミュニケーションを図る活動の際には、ペア活動など少人数で行い、学習形態を工夫する。 	